

令和5年度 愛西市地域ケア推進会議 会議録（概要）

会議名称	愛西市地域ケア推進会議
開催日時	令和6年3月27日（水） 午前9時30分から午前11時25分
開催場所	愛西市役所 南館会議室 1-3
出席委員	鷺野明美 佐藤和子 落合加奈子 山田由子 山内嘉丈 高橋寛直 浅野弥生 日高由紀 玉木二美重 東元子 栗畑由紀夫 塚下友里
欠席委員	三和田篤
事務局	保険福祉部長 人見英樹、保険福祉部参事 高松潤也、高齢福祉課長 八木久美子、 高齢福祉課 猪飼隆善、城安代、古田恵子、保険年金課 山田文枝、佐屋苑地域包 括支援センター 水谷幸代、社協地域包括支援センター 渡辺秀和、社協佐織地 域包括支援センター 中野重利
協議事項等	会議内容 （1）正副委員長の選出 （2）後期高齢者のデータから読み解く愛西市の健康課題について （3）地域で困っていることについて （4）その他
公開/非公開 の別	公開
非公開の理由	
傍聴人	1人
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・愛西市地域ケア推進会議名簿 ・愛西市地域ケア推進会議設置要綱 ・後期高齢者のデータから読み解く愛西市の健康課題について ・利用者対応において本来はケアマネの仕事ではないかと思うが、やっていること ・地域で困っていることについて

審議経過

発言者	内容
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・開会 ・傍聴人1名 ・自己紹介 ・資料確認 ・保険福祉部長あいさつ ・議題（1）正副委員長の選出 委員から推薦により鷺野明美委員を委員長に選任
委員長	<p>委員長あいさつ 委員長より副委員長に佐藤和子委員を選任</p>
委員長	<p>それでは、次第に基づき議事を進行します。 議題（2）後期高齢者のデータから読み解く愛西市の健康課題について、事務局より説明をお願いいたします。</p>
事務局	『後期高齢者のデータから読み解く愛西市の健康課題について』説明
委員長	<p>ただいま、事務局より説明がありました。ご質問はありますか。（なし） 後期高齢者データで死因に自殺とのことですが、どこに相談して、どんな対応がされるのか。</p>
事務局	<p>心療内科や精神科に相談します。 医療機関に抵抗があれば保健センターの健康相談、地域包括支援センター、県精神保健福祉センターに相談する方法があります。</p>
副委員長	このデータを高齢者の方向けにわかりやすく冊子にまとめていただいて配布すると良いと思います。
委員長	<p>他にご質問はありますか。（なし） それでは、次の議題（3）の地域で困っていることについて、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	『地域で困っていることについて』、『利用者対応において本来はケアマネの仕事ではないと思うが、やっていること』説明
委員長	<p>ありがとうございました。 ただいまの説明で、感想、ご意見でも結構ですのでお願いします。</p>
副委員長	<p>専門職でないとできないことと、そうでなくてもできることと二つに分かれると思います。受診の付き添いやお薬を取りに行くことは、ボランティアじゃなくて低額の有償ボランティアで、生きがい、社会参加になり、やっていた方もタダではないので気兼ねない。そんな仕組みができればかなり解消できるのではないかと。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。 では、もう一度、事務局が示したアンケート結果について、ご質問や確認した</p>

	いことはありますか。
委員	ヘルパーの事業所でもお薬カレンダーに仕分けをしたり、デイサービスに薬を届けたりと書いてありましたが、各事業所がもう少し持ち出しあって拡大サービスをやっていけば、数ある中で大分削除できる場所があると思います。
委員長	ヘルパーの本来業務に加えて、持ち出しで対応してくださっています。 高齢者が生活していく中で困っていることに対して工夫していること、地域の助け合いやボランティア、市役所等が支援できることにご意見をお願いします。
委員	交通の便が良くない中で、病院にタクシーチケットを使う人もいれば、巡回バスで目的のところに行くために乗り継いで行くのに待ち時間もかかります。
委員	タクシーチケットの利用目的が緩和されたことは良かったが、通院に使うと枚数が足りない。 工夫した点は、送迎がある通所型サービスを紹介したり、自転車で通えるサロンがないかということで、担い手を探し、その方の町内にサロンを立ち上げました。 運転ボランティアの担い手が不足しているのが課題です。
委員	生活支援サポーター養成講座を行っており、実際登録者数80名ですが、住民主体サービス訪問Bに登録している人数はわずかです。この方たちがケアマネジャーが行っていたゴミ出しの朝に電話をして知らせる、自宅の敷地内の動線の草取りなら、サポーターにもやれるのではないかと感じています。 団体に登録するのではなく直接個人的にやりませんかと声かけをすれば、皆さん結構動いてくれます。こぼれ落ちているところで、救えるボランティアの仕組みが必要と思います。
事務局	各地域の協議体で高齢者の暮らしのことを話し合おうという場があり、シニアカーの話が出て試乗会を何回かやりました。要介護2以上でないと借りられないので、ハードルが高いところがあります。また、事故のことが心配だという人もいます。ただ、試乗し検討していただけるので良いと思います。
委員	医療機関にかかることが、そもそも難しいという人たちが結構みえます。探しやすくなる資料があると紹介もしやすいです。
事務局	立田地区の協議体で往診できるお医者さんの話から、かかりつけ医のお医者さんにそれぞれ聞いてみようという一覧を作っています。
委員	お医者さんに来ていただける地域、来ていただけない地域があったり、かかりつけ医なら訪問してくれるなど一覧にするのは難しいという結論になっています。
事務局	相談してもらって、個人の状況を聞き取った上であまさばにつなげる対応ができます。一覧表にはできませんが、地域包括支援センターに相談してください。 お医者さんもそれぞれ対応に違いがあるので、状況をお伝えして判断を求めた方が良いでしょう。

委員	資料3のケアマネジャーの仕事ではないという回答の中で、介護保険外の仕事の依頼がすごくあります。独居の方から回答の中のような依頼があったり、無理難題なお願いがあり、なかなか着手できていません。
事務局	行政や支援者が踏み込んで支援している中で家族を忘れがちになっていて、この中に遠方に住んでいる家族が支援をしたくても親の現状を知らずにできない人たちもいると思います。色々な関わりの中で、親の現実や困りそうな予感があるところも家族に前もって伝えていくことが大事です。
委員	民生委員や市役所の定期的な訪問はされていますか。
委員	民生委員の活動には高齢者世帯や独居の訪問があり、3月から6月の間に状況確認も含めて行っています。昨年から年齢を変更したため、訪問数は減っています。訪問希望の方には、その後も回っているのが現状です。
委員	市役所の方は、特に訪問されることはないですか。
事務局	定期的な市役所の訪問はなく、ご近所等から連絡が入った時などです。見守り事業として、配食サービスや見守り訪問員という事業があり、申請していただくと、訪問員が家にお邪魔し傾聴するものです。
事務局	保険年金課と高齢福祉課の一体的事業で、令和6年4月から、医療、健診データがないいわゆる健康状態不明者に対する事業を展開する予定があります。そこで拾い上げた人を必要な支援につなげていきます。
委員	行政として、情報をわかりやすく整えていくことが必要と思います。
委員	あまさぼに患者情報があれば、訪問診療の医師に依頼し、担当医が決まりますが、まずはかかりつけ医に相談いただくのが一番良いと思います。 津島市では、社会資源として生活支援コーディネーターが弁当配達や日用品、灯油の配達、電球の交換ができるお店の一覧表を作成して、ホームページで掲載しています。愛西市も一覧表があると良いと思います。
事務局	世代的繋がりへの支えがちょっと弱い、高齢者の課題を高齢者で考えて、高齢者が支えているのが、現状です。若い世代、学生、小中学生が、高齢者の暮らしに関心がないわけではないです。地域のためなら協力しますと言われる企業もあります。世代や介護とはかかわりが薄い企業を幅広く巻き込んで地域の支えを作っていくことができると良いです。
委員	愛西市ではごみ出し支援が今年秋から始まるのですごくありがたいと思っています。 私も協議体に参加していますが、その中で基本チェックリスト対象者や要支援の人たちは、もっと交流していく必要があると思います。 今頑張っているB事業では数が足りない。B事業の方の支援をしていただきたいです。
委員長	本当に貴重なご意見だと思います。 皆さんから貴重なご意見いただいた中で、今ケアマネジャーにアンケート

	<p>調査をしまして、各立場の方から高齢者が困っていること、今後必要なことをお話いただきました。</p> <p>主に出てきたものとして、一つ目は、今後やろうとしている人の支援をする、組織の力を活用していくような仕組みづくりが必要と感じました。</p> <p>二つ目は、情報を整えること、色々な制度がある中で、それが点在するのではなく、情報を整えてわかりやすく発信していくということが必要と感じました。</p> <p>それから、足の問題で、愛西市は、外出が切実な問題というのはあります。足の確保が難しいから、やってほしいとアンケートに出てきていると思いますが、その中で今日特に出てきていた運転ボランティアの活用やシニアカーをもう少し活用できないかと思います。</p> <p>それからもう一つ、外出しなくてもできるという視点から、社会資源について整理していく方法があります。</p> <p>それからもう一つ、家族との連携、家族や本人の持つ力を生かした体制を取っていくことが、これからの方向性として求められると感じました。</p> <p>皆さんからご意見をいただいた中で過去にも地域で困っていることとか、あったらいいなという、例えばごみのこと、これは行政にも取り組んでいただいているのですが、買い物、通院、ごみ屋敷、ペットをうまく飼えない方、色々な課題がありました。</p> <p>皆さんがちょっとした工夫や持ち出しで対応していただいたところが多くありましたが、ここは個別対応ではなく、組織として地域としてきちんと対応していくことが必要と思います。今ある制度でどんなことができるか、新たに立ち上げなくてはならないのは何なのかというところを進めていけると良いと感じました。</p> <p>体制も含めて、今後今日出た生活課題も整理しながら、次年度以降この地域ケア推進会議の進め方を事務局と相談しながら進めていきます。</p> <p>皆様、非常に貴重なご意見をいただきまして、議論していただきましてありがとうございました。</p>
事務局	以上をもちまして、本日の会議を終了いたします。